

新山城地域振興計画 策定の方向性(素案 たたき台)

※現行の山城地域振興計画の実施状況や課題等を踏まえて作成

▶地域の将来像

(骨子案想定)

○未来に希望がもてる地域

○交流と絆で結ばれた地域

○創造と活力に満ちあふれる地域

(背景となる現状・課題)

→ 開発整備、立地促進、発展、安心安全

→ 地域の魅力発信、交流、定住、文化、人権、健康・福祉

→ 産業(商工観光業、農林業)活性化

▶施策の方向性

1 新名神等の整備・開発をばねに大きく飛躍し、府域の発展を牽引するまちづくり

(施策例) ・広域交通網の整備促進、アクセス機能の向上

(新名神の全線開通、JR奈良線の2期工事、宇治木津線、宇治木屋線(トンネル))

・東部丘陵地におけるまちづくり支援と山城地域全体への波及を見据えた地域づくり

・木津川左岸と右岸の交流促進基盤

・北陸新幹線を見据えた整備(松井山手への新たなアクセス)

・駅周辺整備を含むまちづくりと連携する道路整備等都市機能の充実(乙訓)

・上下水道の広域連携による長期的安定性・安全性の確保

など

2 「お茶」「竹の里」など地域資源を磨き、発信し、観光・交流をスケールアップ

(施策例) ・世界文化遺産登録を目指し、宇治茶の魅力の普及と消費・生産拡大

・DMOを核に地域資源を活用した周遊・滞在型観光を推進

・乙訓地域一体となった魅力発信による観光客と消費増の仕掛けづくり(乙訓)

・お茶に加えて山城の食や自然・農業体験の魅力を味わい楽しむ地域づくり

・交通網を活かし、山城・乙訓と淀・伏見・南丹、更に近隣府県との周遊観光促進

・地域文化を次世代に継承・発展

など

3 過疎高齢化が進む木津川右岸地域の魅力をブラッシュアップしいいきと活性化

(施策例) ・自然環境を活かした新たなアクティビティによる体験観光を掘り起こし、交流を推進

・特産品(椎茸、檸檬、ジビエ)の開発による雇用の場の創出及び食の周遊の促進

・仕事などで都会にない新しい価値を創造の場としてひと・企業誘致を促進(関係人口増加)

・体験交流ができる農泊、民泊や地域のメリットを活かした様々な「泊」の場所の拡充

・地域で住み続けるため、生活支援(買い物、移動)や子育て支援の市町村間連携を支援

・移住者のための住宅を確保し、移住定住促進を加速

など

4 やましろ産業を地域の未来を支える柱へとパワーアップ

(施策例) ・産学公連携や農林商工観連携の促進によるイノベーション創出

・AI、IoT、ロボット等の新技術の積極的活用による省力化・生産性向上

・イノベーションを支える人材確保・人材育成

・農業の法人化支援の「のれん分け」による担い手づくりとブランド化や6次産業化

・稼げる農業への応援

など

5 互いに支え合い、安心・安全に暮らせる共生の地域づくり

(施策例) ・集中豪雨・土砂災害対策、資機材増強等のハード整備、災害に強い山・森・地域づくり

・いろは呑龍トンネルの南幹線等の整備による内水対策(乙訓)

・地域防災力を高めるソフト対策

・安心して子育てできる地域づくり

・2025年問題を見据え、地域包括ケアシステムの取組の促進

・生活習慣病予防等の健康づくりに取り組む市町村の支援

・社会的弱者(障害者、女性、貧困家庭等)の各施策の推進

・人権尊重、協働の地域づくり

・向日が丘共生型地域づくり構想の実現に向けた取組等を市町と連携して推進(乙訓)など